

2016年度愛知県サッカー協会4種委員会

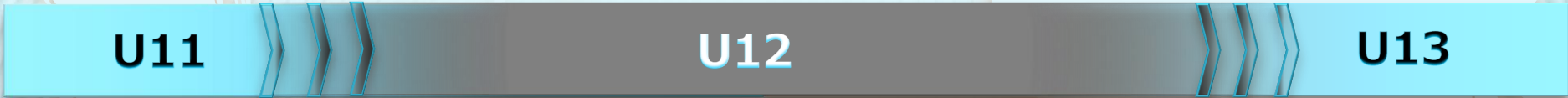
『4種年代グラウンドデザインと コーチングのあり方』



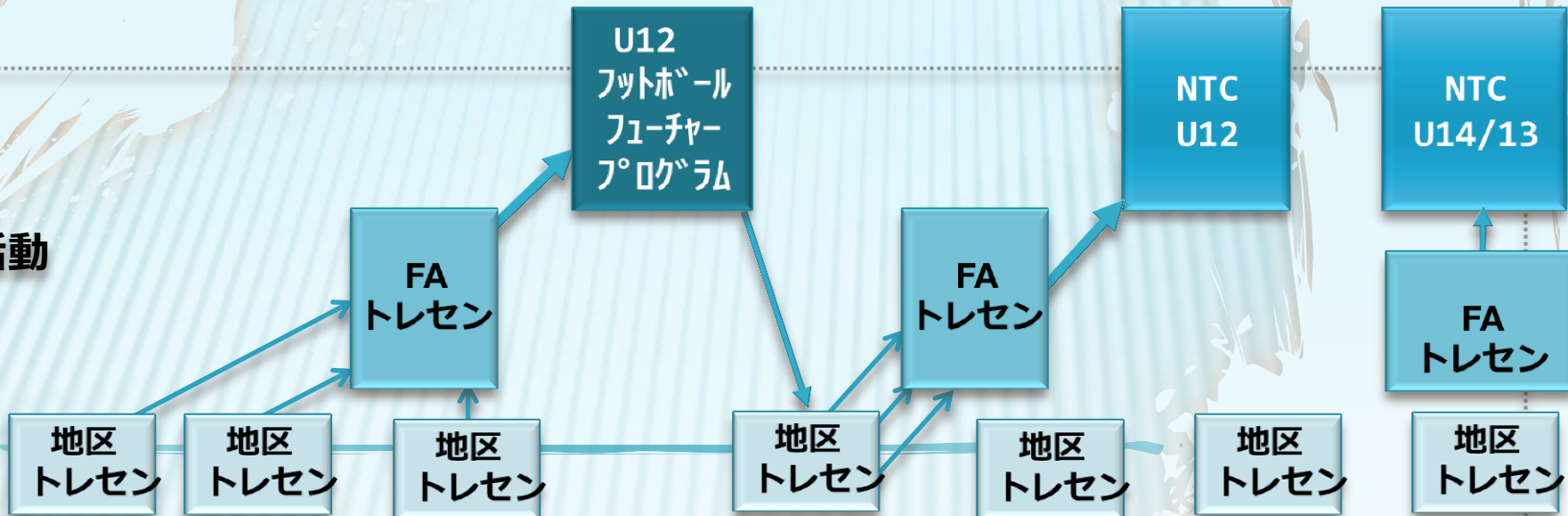
日本サッカー協会
技術委員 指導者養成ディレクター
山口 隆文



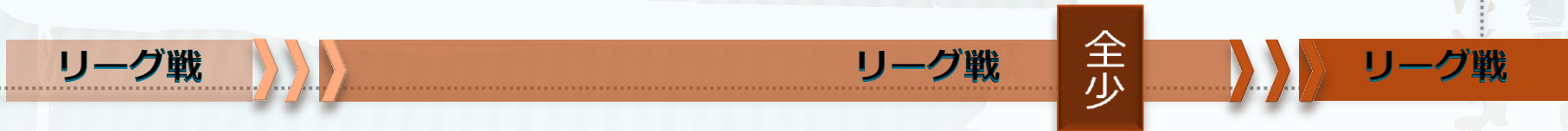
U-12グランドデザイン



の活動



チーム活動



「フットボールフューチャープログラム トレセン研修会U-12」

参加チーム・参加者数

48チーム (47FA各1チーム *東京2チーム)

選手768人 指導者143人

総勢911人!



関わる人々の研修の場

自分たちが作る研修会

～ 関わるすべての大人 ～
子供たちを1人の選手としてリスペクト
子供たちのベストサポーターを目指す

保護者

- ◆ 自立のサポート＝子供を見守る
- ◆ JFAの育成の全体像(コンセプト・成長段階別の対応)の理解
- ◆ 1人審判の意味
- ◆ 栄養・食生活の管理

レクチャーに**100名**
以上参加

各FA指導者

- ◆ 普段のトレセンの成果の確認
- ◆ 全国の指導者と情報共有し、自分の県の立ち位置を知る。
- ◆ 運営のサポート

143名参加

選手

- ◆ ゲーム・トレーニング・レクリエーションを通じて、新たな自分を発見する。
- ◆ 自立のために必要な知識を得る。

768名(女子7名)参加

指導者研修会受講者

- ◆ 最新情報とトレセンの意義の共有(モデル地区トレセン)
- ◆ 日常の活動へのフィードバック方法
- ◆ 目の前の選手のコントロール
- ◆ 暴力根絶/健全育成クラブ

50人参加

審判

- ◆ ユース審判の育成
1人審判で身に付けてほしい力
(ルール理解・ゲームの流れを読む・
全体のコントロール)
+ 選手育成にも関わっていることの理解
- ◆ 審判との協調
指導者とのディスカッション

FAインストラクター**40人**以上・
ユース審判**43人**以上参加

一般指導者(視察者)

- ◆ 最新情報とトレセンの意義の共有(モデル地区トレセン)
- ◆ 目の前の選手のコントロール方法
- ◆ 8人制の意義の理解

ナショナルトレセンコーチ
35人参加



第39回全日本少年サッカー大会



JFA TSG



🏆 日程

12月25日～12月29日(5日間)

🏆 会場

鹿児島ふれあいスポーツランド
鹿児島県立鴨池陸上競技場・補助競技場



🏆 大会方式

48チームが4チーム×12グループに分かれ
総当たりを行う1次ラウンド

⇒1次ラウンド各グループ1位チーム及び2位チームのうち上位4チームの計16チームによるノックアウト方式を行う決勝ラウンド
(2次ラウンド、ドリームトーナメントの廃止)



サッカーの本質の追求が随所に見られた大会 ～ ゴールを目指す、ボールを奪いに行くプレー ～

全てのプレーがゴールを奪うために！

切り替え

相手の守備が整う前に**攻撃**する

攻撃

ゴールに向かう
(ゴールを狙うために簡単に
ボールを失わない)

守備

攻撃のためのボール奪取
(失点を防ぐ)

切り替え

攻撃を継続するためにボール
奪取を狙う
次の**攻撃**に備え帰陣を早くする

攻撃

ボールを保持しながらゴールを目指すチームがスタンダードに

- ・身体の向き(観る)⇒攻撃の優先順位
- ・動きながらのテクニック
- ・状況に応じてポジションを取り続ける
- ・タイミング良くアクションを起こす

タウンクラブの向上
が目についた

守備

ボールを奪いに行くチームがスタンダードに

- ・ボールを奪いに行く意識(チャレンジの優先順位)
- ・1対1の対応力(球際の厳しさ、粘り強さ)
- ・マークの原則(ポジショニング)
- ・チャレンジ&カバー

フィジカルと守備意
識は向上



リーグ戦を通して良い経験の積み重ね



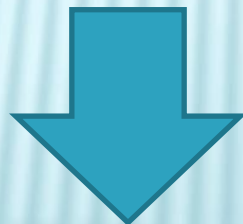
選手自身がトライ&エラーから学ぶ

指導者の効果的な働きかけ

◇ Guided Discovery

基準の提示⇒思考を停止させないアプローチ
ポジティブな言葉がけ

◇ サッカーの志向、育成のフィロソフィー



子どもたちも指導者も成長



リーグ戦の検証



参加チーム監督コメント

- ・一発勝負のトーナメントではなかなかチャレンジできないが、1つの試合(勝ち負け)にこだわり過ぎずに課題に取り組むことができた。
- ・**日程や会場確保は大変だったが**、継続的に緊張感のある試合が経験でき、多くの選手に公式戦出場の手を渡すことができた。
- ・相手に研究される立場でリーグ戦を戦う状況だったことにより、選手たちは知らず知らずのうちに自分たちから積み上げるためにどのようにするべきか工夫するようになった。



リーグ戦の検証



参加チーム監督コメント

- ・2回戦総当たりであったので相手チーム同様に自分も対戦を振り返り、次にどのように試合に取り組むべきかを以前よりも考えることが多くなり、指導者個人としても非常に有効な取り組みができた。
- ・年間リーグを経験して、なぜ海外でリーグ戦が実施され、**かなり難しい日程の中で**今年から実施したのか理解できたように感じた。
- ・チビリンピックに出場して他のチームから刺激を受けて、ポゼッションを高めようとその後のリーグ戦でトライしながらチーム作りをしてきた。リーグ戦でトライすることができ、時間をかけて選手一人ひとりの成長につなげることができた。

日本の育成への示唆

・この年代では多くの選手に可能性がある！
(誰が将来良い選手になるかわからない)

・特定の選手だけでなく、チーム全体のレベルアップを図ることで最終的に良いチームに！

・この年代ではチームのやり方やポジションの役割よりも、状況に応じてプレーできる力を付けさせることが大事！
(将来どのポジションをやるかわからない)



さまざまな選手の出場機会・さまざまなポジションの経験

チーム表彰



優勝 レジスタFC(埼玉県)

準優勝 鹿島アントラーズジュニア(茨城県)

第3位 符津SS(石川県)



兵庫FC(兵庫県)



フェアプレー賞 FCアミーゴ(鳥取県)

特別賞 アイリスFC住吉(大阪府)

Most Impressive Team YF奈良テソロ(奈良県)

2015 リーグ戦 懸案事項 (抜粋)



- × 日程調整が難しい
- × 勝負にこだわり、登録選手を全てを試合に出せなくなったチームがあった
- × 上位チームと下位チームとの差が大きかった
- × 指導者と審判の質に課題

今後、4種大会部会中心に検討していく



- × リーグ戦への取り組みに対する理解が深まり、各チーム、保護者の協力が得られるようになった。
- × 今までトレーニングマッチを多く組めなかったチームも多くのゲームを実施することができた。
- × リーグ戦会議を数回重ね地域間の修正、運営方法などを修正できた。



- × すべてのカテゴリーを一会場で行うため、効率よくタイムスケジュールを組むことができた。リーグが定着してきたことにより情報交換の場としても有効に活用されている。
- × U-10～12と同時開催で行い、保護者の協力のもと、コート作り等を行っていただき、開催担当チームとしての役割が出来た事は非常に良かった。
- × クラス分けをすることで多くの選手が実力の近いチームと試合をすることができた。



- × 全少の予選がリーグの結果を反映させることで真剣勝負が多くなった。
- × リーグ終盤には個人戦術が大幅にアップして、チーム間の極端なばらつきが解消された。
- × M-T-Mにつなげる意識が高まった。
- × 選手のゲームに参加する機会は増えた。定期的な試合の開催によって選手のモチベーションを高く維持することが出来た。



- × 一人一人のボールタッチの回数が増えるためより個人能力がアップし、攻撃的でシュートチャンスも増えている。子供たちのテクニック向上した。
- × 普段出場機会の少ない選手を出場させることができた。
- × 4種研の実施で指導者の意識が高まった。指導者が必要以上に勝敗にこだわることなく、登録選手の出場機会を増やすことができた。

- × **日程調整が難しい**
- × **勝負にこだわり、登録選手を全てを試合に出せなくなったチームがあった**
 - ⇒時間はかかるが、指導者への啓発を継続する。
 - ⇒複数チームによるチーム編成
- × **指導者と審判の質に課題**
 - ⇒ 全ての指導者のD級ライセンス取得の促し
 - ⇒ 監督のD級以上のライセンス取得義務
 - ⇒ ベンチ入りスタッフ、ライセンス保有の義務付け

今後、4種大会部会中心に検討していく

合言葉は



Players First !!



どんなにそれが大変であっても、
100年の歴史の中でどこかで
やらなければならないとしたら、
我々の世代でやってみよう！

子どもたちのために！

Players First!



育成の考え方 指導の考え方

日本サッカー協会 技術委員
指導者養成ディレクター
山口 隆文

● 世界基準



育成方針

日常のトレーニング風景を変える

◆ 世界基準の厳しさ、激しさ、
タフさを日常にする！

◆ Japan's Way の具現化
テクニクの質の追求！

◆ 自立した選手を育成する！



DREAM
夢があるから強くなる

◆世界基準の厳しさ、激しさ、タフさを日常にする！

⚽守備の厳しさ (ボールを奪う**意識**) 【Compact & Aggressive】

- ・インターセプトを狙う
- ・プレッシャー(寄せの早さ+間合いの厳しさ)
 - ・コンパクト・連動(コレクティブ)

切り替えの速さ

- ⚽試合で生きる、使えるテクニック
- ⚽勝負にこだわる「強い個」の育成

⚽関わりながら連動した攻撃 【Intensity & Quality】

- ・ゴールに向かう・ゴールを奪う**意識** (そのための保持)
- ・ON/OFFでの的確な判断とそのスピード、動きながらのプレー

⚽テンポとIntensity (プレーの強度) を上げる！

Japan's Way

Japan's Wayとは**特定のチーム戦術、ゲーム戦術を示す言葉**ではなく、**日本人の良さを活かしたサッカーを目指すという考え方そのものであり、イメージの共有のための言葉である**

日本人の特徴

- 技術力（足首の柔軟性等）
- 俊敏性
- 持久力
- 組織力(和を大切にす文化)
- 勤勉性
- 粘り強さ
- 知的理解力
- フェアである
- …など

日本人の良さを活かすためのサッカーの「基本」

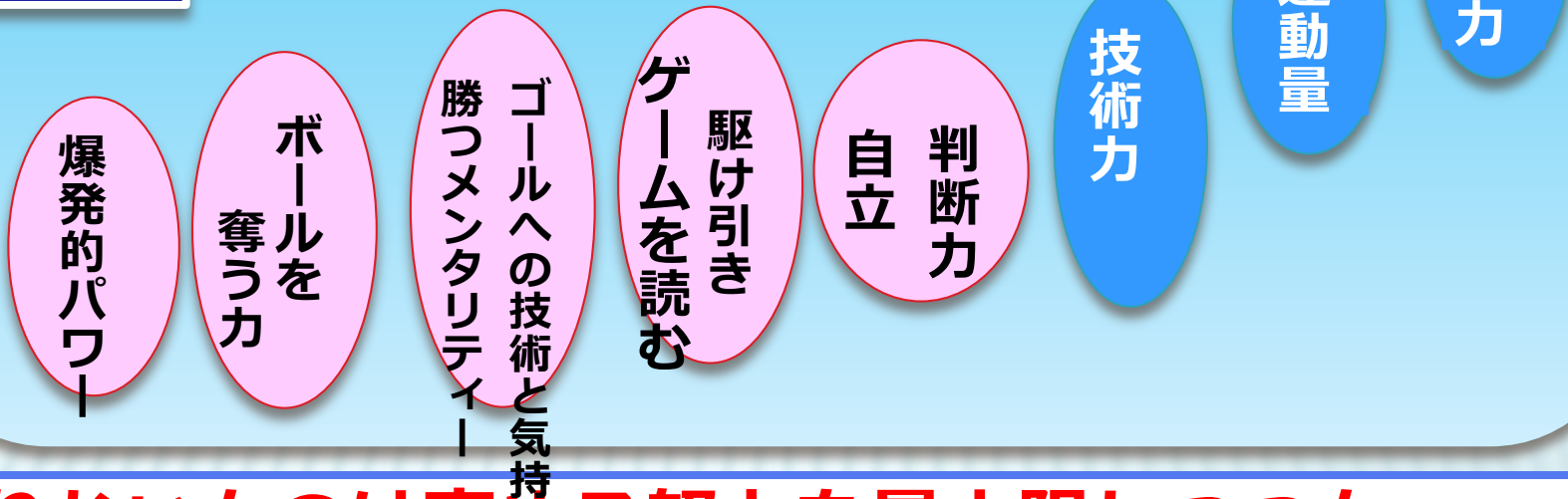
- ★テクニック(技術+判断)
- ★攻守に関わり続ける個人戦術
- ★持久力(運動量)

育成年代でこそ身につけられる。共有して取り組む。

Japan's Way



世界基準



足りないものは高める努力を最大限しつつも、
世界基準よりも勝って行くべき日本人のストロングポ
イントをさらに伸ばしていき、それを活かして
日本人らしいスタイル を創り、戦っていく。

テクニックの質の追求に限界はない！

プレーの質 = 指導者自身の思考・基準

プレーヤーに対するプレーの質の追求は、指導者自身が持っている基準であり、こだわりである。
高いプレーの質の思考がなければプレーヤーに高い要求はできない



指導者自身がサッカーの全体像を理解し、プレーの質にこだわることが大切！



質へのこだわり



中村 憲剛

(都立久留米高校→中央大学→川崎フロンターレ)



壁当て⇒止める・蹴る

佐藤 寿人

(サンフレッチェ広島)



フィニッシュの精度

アルベルト・ザッケローニ監督

「**身体の向き**を理解しなくてはならない。
それは育成年代から学んでおくべき。」



サー・アレックス・ファーガソン

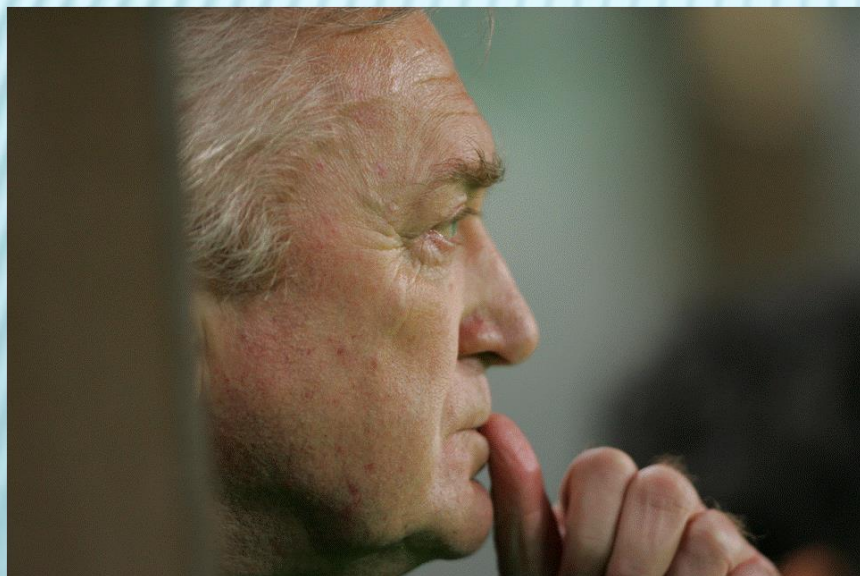
「香川はハーフターンを覚えれば
もっと活躍できる」

「ゴールに背を向けてボールを受けるのではなく、**身体**の位置をうまく**整**えて、ゴールに向かうように**ボ**ールを受ける必要がある。そうすることでゴールへの距離が近くなる。ゴールに背を向けてプレーしているようでは、相手の脅威になることができない」



オシム元日本代表監督

「日本人はつまらない（単純な、シンプルな）
練習が不足しているのではないか」



代表TR



日本サッカーの将来に向けて

基本の徹底

**サッカーの基本は変わらない
ブーム、気分に流されない
やるべきことを徹底し続ける**

自立したサッカー選手を育成する！

- ・サッカーに模範解答はなく、たくさんの解決策や可能性がある。
 - *On the pitch*でも、*Off the pitch*でも —

論理的思考→自己判断→チャレンジ の習慣化

大人(指導者・親)の働きかけ

基準を示す

褒める、見せる

思考を放棄、
停止させない

なぜ？問いかけ

リスク
チャレンジさせ
見守る

- 判断する基準を示しながらも
思考を放棄・停止させない指導

ティーチング ・ コーチング

思考する材料を身につけさせる(ティーチング)

- 正確なボール操作(技術)の習得・・・質へのこだわり
- 常に周りを観る意識
 - 個人戦術の理解(サッカーの原理原則) 論理的思考
 - 闘う姿勢、・・・勝負へのこだわり
 - 人間力 (取り組む姿勢 リスペクト精神)

※技術の習得や初心者への指導には、ティーチングが有効



思考を停止させないアプローチ(コーチング)

- ・サッカーのプレーは選手自ら決断して実行する。その連続である。
- ・サッカーに模範解答はなく、たくさんの解決策や可能性がある。

※自ら考え、行動し、解決できる「自立した選手の育成」にはコーチングが有効

働きかけの考え方

新C級でより強調

“Guided Discovery”

主役は選手！ “Guided Discovery”

発見を導く、引き出す

コーチにとって大切なことは
解決法を与えることではなく、

自ら解決法を見出す力を身につけさせること



子ども達自身が見つけられるよう導く、仕向ける

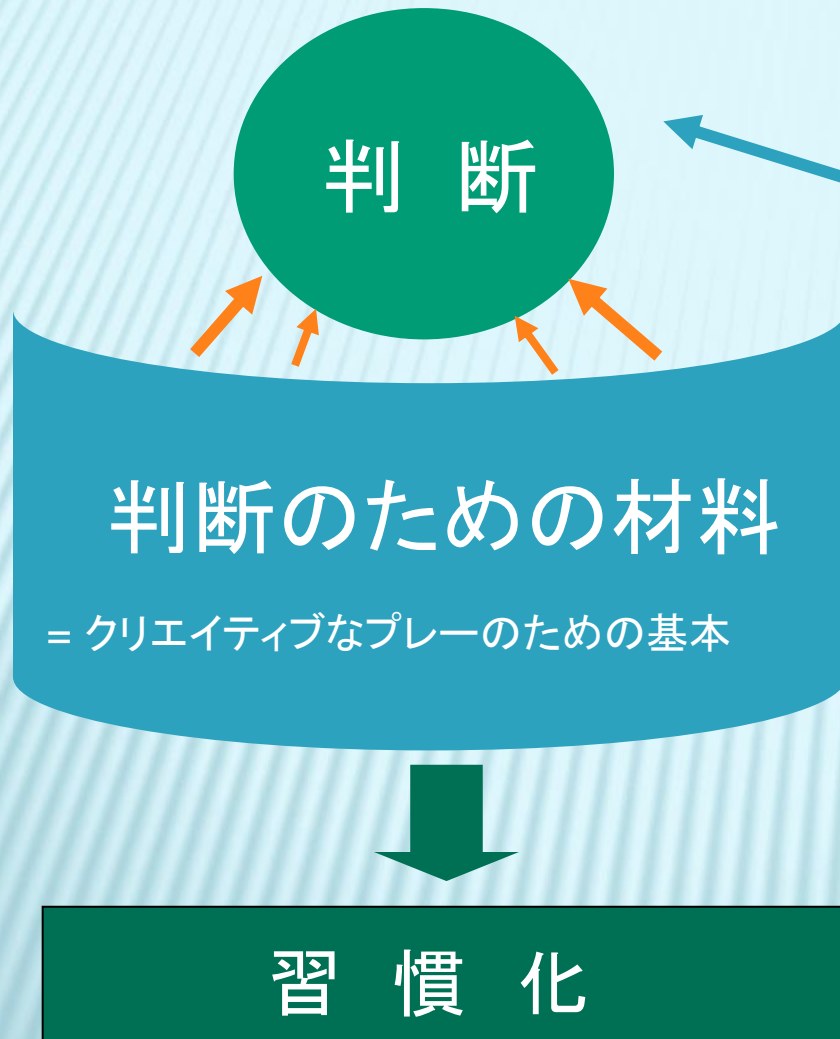
- 場の設定(オーガナイズ)
- 投げかけの言葉・問いかけ
- 働きかけ

→ 気づきを導き出す



ティーチングとコーチング

判断の部分に直接働きかけすぎると、
判断する能力をスポイルしてしまう



コーチのはたらきかけ

- 判断のための材料
= 基本
- 正確なボール操作 (技術)
 - 常に周りを観る意識
 - 個人戦術の理解 (サッカーの原理原則)
 - 闘う姿勢
 - 人間力
 - ・ 取り組む姿勢・追求する力
 - ・ リスペクト精神
- ◎ プレーの質・勝負へのこだわり

基準を示しながらも、思考を停止させないアプローチが大切！

● 良いプレーを褒める・具体的提示 (デモ)

● 投げかけ、発問、ジャッジ

日本の育成への示唆(まとめ)

育成のサッカーのフィロソフィー

「今日の結果ではなく、
子どもが明日どんなプレーをするかを
楽しみに指導をすること」

イビチャ・オシム



選手のプレーの質は、**指導者自身の志向・基準**によって影響される。今こそ本気で、これまでの価値観を変え、
世界基準での指導に転換しよう！

世界を目指すために

Key Word

**指導者しか選手を
変えることができない**

「指導者は選手の未来に触れている」

我々は年代に応じて獲得できる技術、
戦術、体力を獲得させ、
世界で闘えるタフで逞しい選手を育てる
役割がある



アンディ・ロクスブルク



ご静聴ありがとうございました

